

## 2019年度卒塾生 信頼関係

衝撃的な出会いだった。新中1入塾テスト予備日。数人で国語のテストを受けてもらっていたのだが、行ってみると、なんとそこには早々に答案を教卓に提出し、涼しい顔をしてゲーム機で一人ゲームをしている姿が・・・。「何だ、この子は!？」一驚く私を尻目に彼は淡々と残りの数枚のテストもこなしていった。そして、入塾テストの結果はというと、何と堂々の1位!中でも論理的な思考力を必要とする単体量テストは満点だった。その後の入塾面談で「やります。」と言い入塾決定となったのだが、幼さの残るそのあまりの“自由さ”に(習い事も続いたことがないらしい)「これは一筋縄ではいかないな・・・。」と、私は一抹の不安を抱いていた。

入塾後、その不安は的中。綺麗にアルファベットを書くこと、指導された通りの計算途中式を書くこと、など当塾ならではの私の指示が納得できない。パートテストや宿題こそお母さんの管理でこなしてはいたが、気持ちがつまづかない。2ヶ月後、ついに退塾の意思が出てきた。ご両親とともに行った面談で、私は「この子にはきちんと理屈を通して話すほうがよい。」と判断して、なぜ人に提出する物の字は綺麗に書く必要があるのか、なぜ数学の計算式は省かずきちんと書かねばならないのかを伝えた。するとその時、一瞬彼の目が輝いたのが見えた。

変化が出たのはその後である。授業中私に向けるまなざしはそれまでとは比べものにならないほど素直になり、提出物も改善された。それだけではない。1学期の定期テストの学年順位は17位、21位、と平凡なものであったが、夏休み明けの実力テストで3位に、そして2学期中間テストでは遂に1位に躍り出た。この結果は彼自身を驚かせ、自分の力と私の指導への信頼を固めさせることとなった。そうなる本領発揮である。頑張れば勉強面で人に負けないことを自覚し、テストの都度全力で取り組んで、ほぼ1位をとり続けた。「ここまでの問題はおそらく出ないだろうから、無理せずやれる範囲でいいよ。」と私が彼のために用意した理科や数学のかなり難しめの問題も、「もしかしたら出るかもしれないから。」と言って、前日遅くなろうと一問もやり残さなかった。国語力強化のために始めた新聞コラム欄の要約も、今までのどの塾生よりも長い期間私に添削を求めてきた。中3の後半でも490点前後をとった彼とライバル達が、後に「春日井一のレベル」と言われたこの年の高蔵寺中学校を引っ張っていったと言っても過言ではない。旭丘高校を受験する頃には、入塾時の彼の“自由さ”は自立に、“幼さ”はひたむきさに進化していた。あの日の面談がなければ彼との3年間はなかった。指導するもの、されるもの、そこには信頼関係が何よりも大切であると再認識させられた3年間である。